

ななかよし

広報

2015.

11

No.122

- 那珂川町合併10周年記念式典を開催 2
- 那珂川町消防団通常点検 4
- 那珂川町職員採用試験（二次募集）案内 7
- 「税を考える週間」のお知らせ 9
- 青色決算説明会及び白色決算説明会のお知らせ 10
- 幼稚園・保育園で運動会 14

広報 Koko Gallery
展示室

第122回

秋季特別展 没後100年 小林清親展
—新しい時代の息吹と浮世絵の終焉—

猫に追われて明るい光を放つ提灯に逃げ込んだねずみ。尻尾を押さえつけられ、まさに絶体絶命の瞬間です。口先が提灯を突き破り、

提灯の中で焦っている様子が目に浮かびます。

光と影が複雑な色合いで表現されているこの「猫と提灯」という作品は、まるで油絵や銅版画のように見えますが、実は木版画で作られています。

「猫と提灯」は、明治10年(1877)に明治政府主導で行われた第1回内国勲業博覧会に出品するために作られました。これを博覧会に出品したのは版元の松木平吉という人です。版元は、今でいう出版社と本屋を兼ねた存在で、プロデューサーでもありました。清親は松木平吉の依頼で洋画風の原画を描き、その絵をもとに彫師が板を彫り、摺師が版画に仕上げました。摺り重ねた回数はなんと35回!前代未聞の凝りようです。

博覧会に出品された点数は全部で84,352点で、優秀作には賞牌や褒状が授与されました。松木平吉も褒状を授与された一人です。厳密に言うと、褒状は「錦絵ならびに絵本、団扇絵」を作成する活動に対してのもので、松木を代表とする22名の版画制作関係者のグループに与えられました。清親の「猫と提灯」は、グループのリーダーであった松木平吉が、当時の木版画における最先端かつ最高技術を誇示するためのデモンストレーションとして制作されたものだったのです。

明治時代になると西洋から写真やリトグラフ、エッチング、油絵などの新しい技術が海外から入ってきて、木版画はだんだんとその地位が脅かされてきました。やりすぎなほど手が掛けられたこの作品には、日本の浮世絵が、それらに負けないものだという主張や制作者たちの気概が感じられます。



「猫と提灯」 小林清親

松木平吉が所有していた版木は「開運!なんでも鑑定団」に登場する浮世絵の鑑定士、渡辺章一郎さんの祖父、庄三郎さんの手に渡りました。当館で所蔵している「猫と提灯」は、その版木を使って昭和17年に摺られたものです。この版木一式は今も渡辺版画店に残っています。

馬頭広重美術館 主任学芸員 長井裕子

【会 期】

後期：11月23日(月)まで

【開館時間】

午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)

【広重紅葉祭りのお知らせ】

毎年恒例の「広重紅葉祭り」が11月15日(日)に行われます。当日は、広重美術館の入館料が無料になりますので、ぜひご来館下さい。

【休 館 日】

月曜日・祝日の翌日

【入 館 料】

大人 700円(630円)

高・大学生 400円(360円)

※()は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成26年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品



入選「御前岩の秋」杉本 静さん(片平)

入選「佳日」

江川 清さん(宇都宮市)

